

これからのマスク着用の考え方について

新型コロナウイルスの基本的な感染対策として、マスクの着用は極めて重要です。しかしマスクの着用が長期化する中で、表情が見えにくくなることによる影響を懸念する声や、これからの気温・湿度が高くなるシーズンに熱中症等が心配されています。そうした中で政府から**屋外と子どものマスク着用の考え方**について発表がありましたので、ポイントをおさえておきましょう。

屋外・屋内でのマスク着用について

ランニングなど人と離れて行う運動や鬼ごっこのような密にならない外遊びなど、他者との距離を2メートル以上確保できる場合や、屋外で人とすれ違うことはあっても会話をほとんど行わない場合は、マスクを着用する必要がないとされました。しかし屋外であっても、**近距離で会話をするような場合は引き続きマスクの着用が必要**です。夏場については熱中症になるリスクが高くなるので、必要のない場面ではマスクを外すことが推奨されます。



屋内では、他者との距離を2メートル以上確保できていても、**会話をする場合はマスクの着用が必要**です。(ただし、十分な換気などの感染防止対策が講じられている場合は外すことも可)また、図書館での読書や芸術鑑賞などほとんど会話を行わない場合については、距離が確保されていればマスクを着用する必要がないとされました。



●マスク着用の考え方:まとめ

	身体的距離が確保できる (目安 2メートル以上)		身体的距離が確保できない	
	屋内(注)	屋外	屋内(注)	屋外
会話をを行う	着用を推奨する (十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可)	着用の必要はない 事例①	着用を推奨する 事例②	着用を推奨する
会話をほとんど行わない	着用の必要はない			着用の必要はない 事例③

(注)外気の流入が妨げられる建物の中・地下街・公共交通機関の中など。

※夏場については、熱中症の観点から屋外の「着用の必要のない」場面ではマスクを外すことを推奨。

※お年寄りと会うときや、病院に行く時などはマスクを着用する。

事例① ・ランニングなど離れて行う運動

・鬼ごっこなど密にならない外遊び

事例② ・通勤、通学時などの電車やバスの中

事例③ ・徒歩での通勤など、屋外で人とすれ違うような場合



小学校就学前の児童のマスク着用について

●**2歳未満(乳幼児)**については、引き続きマスクの着用を推奨しない。

●**2歳以上(就学前)**については、マスク着用を一律には求めない。

就学前の子どもについては、子ども一人ひとりの発達の状況を踏まえる必要があることから、マスクを着用することは推奨していません。特に2歳未満では、息苦しさや体調不良を訴えることや、自分で外すことが困難であることや、窒息や熱中症のリスクが高まるため、着用は推奨されていません。



2歳以上の場合であっても、マスク着用を一律には求めていません。マスクを着用する場合は、息苦しさを感じていないかどうかについて、保護者や周りの大人が十分注意した上で着用しましょう。なおWHOは5歳以下の子どもへのマスクの着用は必ずしも必要ないとしています。

作成: 関東信越税理士国民健康保険組合

さいたま市大宮区桜木町 4-376-1

TEL:048-631-2211 FAX:048-644-3030



こちらのQRコードをスマートフォンで読み込むと組合HPへアクセスできます。

参考: 厚生労働省